One visit treatmentで行ったセラミック修復症例を通しての基礎的な治療ステップの再考

Reconsideration of basic treatment protocol through one-day ceramic restoration.

日本臨床歯科CADCAM学会　北海道支部
フラワーデンタルクリニック　麻生 雅史
Flower dental clinic　　Masafumi Aso

「目的」

近年のデジタル化の流れは歯科診療のスタイルを大きく変化させてきた。当院では2016年にCEREC Omnicamを導入した。導入初期はインレーやクラウンなどの単歯修復のみの活用だったが、現在はコネクトケースセンターを介してラボと連携しロングスパンブリッジや、サージカルガイド、アライナーなど多くの診療で活用できるようになってきた。導入5年目に入った今、基本に立ち返り単歯修復における基本的原則について考察したいと思う。本症例では基本的原則を順守しOne visit treatmentで治療を行い、良好な結果が得られたので報告する。

「症例」

40歳、男性。36に冷水痛を認め治療を希望された。36にCEREC Omnicamを用いてOne visit treatmentでセラミック修復を行なった。

「結果」

基本的原則を順守し治療を進めたことで術後疼痛などの不快症状を認めず、良好な結果が得られた。

「考察及び結論」

今後もIOSの進化はまだまだ続くであろう。しかし、最先端の機械・器具を導入しても良好な治療結果を得るためには基本的原則を順守することが重要と考える。